



FESTIVAL DE CANNES
SÉLECTION OFFICIELLE 2024
CANNES CLASSICS

シナリオ

"SCÉNARIO'S"

ジャン＝リュック・ゴダール

遺作

ÉCRAN NOIR
PRODUCTIONS

arte

nekojarashi . 


Roadstead

 centre national
du cinéma et de
l'image animée

製作：Écran noir productions / Arte France / ねこじゃらし / Roadstead
配給：ねこじゃらし 後援：在日フランス大使館 / アンスティチュ・フランセ 在日スイス大使館
2024年 | フランス / 日本 | 54分 | カラー | フランス語 | 日本語字幕 

第77回 カンヌ国際映画祭
第49回 トロント国際映画祭
第37回 東京国際映画祭

凄まじい映画だった。

全世界、全歴史、そして全映画と深くコミットしながらも、最後は「それは私である」と高らかに宣言され、圧倒される。これぞ監督主演映画の最高の到達点。

黒沢 清 (映画監督)

ジャン＝リュック・ゴダールから、映画界への最後の贈り物。

2022年9月13日、ジャン＝リュック・ゴダールはスイスにて自発的な死を遂げた。彼はその2年前から、『シナリオ』(Scénario)と題した最後の長篇映画企画に取り組んでいた。モンタージュの構想を記した手帳やノートが、アイデアを明確にするために何冊も作られた。ところが、ゴダールは死の数日前になってカードを切り直し、二部構成の映画を仕上げるように指示を出す——。それに従って制作されたのが本作『シナリオ』(Scénarios)である。

本作は、コラージュ技法による18分の本編『シナリオ』(Scénarios)と、ゴダール自身が長篇企画『シナリオ』の制作ビジョンを語るドキュメンタリー映像『シナリオ：予告篇の構想』(Exposé du film annonce du film "Scénario")の二部で一つの作品として構成されている。

時代を超えた美学と革新的な映像表現を追求し続けた巨匠が、映画と私たちに贈る最後のメッセージとは——。



『シナリオ』(Scénarios)

監督・脚本・編集：ジャン＝リュック・ゴダール 撮影：ファブリス・アラニーヨ 製作主任：ジャン＝ポール・バタジア
製作助手：オーレリアン・ブティ、リゾン・ドゥート

『シナリオ：予告篇の構想』(Exposé du film annonce du film "Scénario")

監督・脚本・編集：ジャン＝リュック・ゴダール 共同執筆：ジャン＝ポール・バタジア、ファブリス・アラニーヨ
助言：ニコル・ブルネズ 撮影：ファブリス・アラニーヨ 製作主任：ジャン＝ポール・バタジア 製作助手：オーレリアン・ブティ、リゾン・ドゥート

プロデューサー：ミトラ・ファラハニ、ファブリス・ビュショー、川村岬
アソシエイト・プロデューサー：梶原南菜子 字幕翻訳：手束紀子 翻訳監修：堀潤之

X @jlg_scenarios

WEB <https://roadstead.io/scenarios>

